

2026年度 足利赤十字病院 (病床数 540) 【1年次】

受入人数	【1年次】2名		研修手当				勤務時間	休暇			当直 /月	宿舎	社会保険・労働保険等				
	基本手当		賞与		時間外	休日		有給		年末 年始							
	1年次	2年次	1年次	2年次				1年次	2年次								
常勤	330,000		(夏) 110,000 (冬) 330,000		約170,000円 (参考: 約50時間)	第2.4土曜日、 日曜日、祝日、 7/1(創立記念日) 年末年始12/29~1/3	(月～金曜日) 8: 45~17: 05  (1.3.土曜日) 8: 45~12: 35	13日  (夏季休暇3日合)		約3~4回 平日夜勤：1年次 (13,000円) 休日夜勤：1年次 (20,800円) 土曜勤務：1年次 (26,000円) ※1.3.5土 休日日直：1年次 (20,800円)	12/29~1/3	※令和6年度より当直を勤務化	宿舎【クロワルジュヨリ赤】 单身用60戸：病院より徒歩3分 内装：木目調、床材：カーペット <設備>ベッド、洗面台、乾燥機 冷蔵庫、電子レンジ IH灶台、(2口)、カーテン、独立式 バス・トイレ、無料Wi-Fi完備、宅配 ボックス、トランクルーム、多目的 ルーム、音楽室、洗濯機完備 <宿舎代>18,000(共益費4,900)	<保険関係：病院で加入> 健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険、医師賠償責任保険 <福利厚生> 病院の医療費返還（自己負担1,000円のみ／月）、研修・学会費負担、慶弔費支給、職員旅行、年末パーティ、互助会クラブ活動有り			

○ 研修診療科（必修科目）について

科目	研修内容（手技・症例数・指導医数等）
内科	<p>内科において、腎臓内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科、膠原病内科の計6科の専門内科を合計24週間ローテートする。厚生労働省の卒後臨床研修成目標のうち、一般目標、基本的診察法、基本的検査、基本的治療法、基本的手技の中の小外科的な手技を除く部分、末期医療、患者・家族関係、医療メンバー、文書記録・診断評価・評価、ターミナルケアなどを修得する。</p> <p>腎臓内科では原発性系球体腎炎、不プロセーゼ症候群、間質性腎炎、全身疾患に伴う糸球体腎炎、急性腎不全、慢性腎不全などの腎臓疾患有する患者の診察、治療を入院外来、コンサルを通じて行い、常時腎臓疾患の具体的な指導等を受ける。また、腎疾患診療が必要な手技(膀胱鏡検査・カテーテルの挿入、腎生検等)のヘッドサイド手術等を受ける。</p> <p>透析療法では、血液透析、腹膜透析(COPD、IPDを含む)、血液濾過(ECMOを含む)、血液灌流、血漿交換を指導のもとでハイドレート穿刺を行い、透析患者の管理にあたる。</p> <p>呼吸器内科では、気管支鏡(ハイブリッドスコープ)、胸腔鏡、トロカーテルの挿入についての指導を受け経験する。</p> <p>循環器内科では、研究室は原則的に内科学の領域を専門分野とするが、上部消化管内視鏡検査の技術獲得は必須との観点から上部消化管を中心とした指導を受け、昇支腸鏡検査等の内視鏡検査の実習の研修室には上部消化管内視鏡検査等の前段階にCCU、ERCP、内視鏡的治療等の指導を受けることができる。</p> <p>循環器内科では、CCU・ICUでの指導医とシグントの内視鏡のものとし、心筋梗塞、狭窄症、心筋梗塞、心不全、心房細動などの症例を経験し、蘇生方法、人工ペースメーカー挿入、人工呼吸器による呼吸管理、スランギングカテーテルを用いて循環動脈の直接指導等を受けることができる。</p> <p>膠原病内科では、RA、SLEなど代表的な疾患の診断・治療を指導医の下で学ぶ。</p> <p>神経内科では、t-PAを含む脳卒中治療、First Neurological Examinationを通じた神経学的診察・診断と、神經難病を含む非脳卒中疾患についても学ぶ。</p>
救急科	<p>救急の多様な患者の診療経験から、研修医は緊急性と重症度の評価、緊急処置の知識と手技、入院の要否の判断、他科医師への適切なコンサルテーション、などを習得することができる。研修医は救急室での救急診療とともに、入院した救急患者の診療経験も持つべきである。このことによって、救急部外来での初期診療のフードバックがえられ、また、医学全体の中に立ちぬく救急医療の意味を理解することが可能となる。</p> <p>生命や機能能再びに係る緊急病態、疾病、外傷に適切な対応をするために、①ハイタルサンの評価ができる。(2)重症度および緊急性の評価ができる。(3)一時救命処置(BLS = Basic Life Support)を実行でき、かつ指導できる(4)二次救命処置(ACLS = Advanced Cardiovascular Life Support、呼吸・循環管理を含む)ができる。(5)頻度の高い急救疾患、外傷、緊急病態(ショックなど)の診断と初期治療ができる。(6)専門医への適切なコンサルテーションができる。(7)入院の要否(disposition: 患者処遇)の判断ができる、など習得する。</p>
外科	<p>外科において、外科診療における基本的知識と技術を学ぶとともに、将来の専門性にかかわらず、日常診療で頻繁に遭遇する疾患や病態に適切に対応ができるように、外傷医療チームの一員として診療に参りながら、外科的疾患への対応、周術期管理を研修する。外科的治療の適応、有効性と限界、その手術式を理解しながら、プライマリーケアの実践に必要な外科的基本手技を身につける。将来、外科系を目指す医師に対しては、これらの導入的基本知識や基本的手技の他、さらに簡単な手術技術を習得して研修する。各診療科の指導医が研修医の指導にあたり、診療計画を推進する。</p> <p>経験できる手術技術としては、術者としてはヘルニア手術、痔瘻手術、痔瘻根治術、外痔剥離術などのいわゆる Minor Surgery から始めて、腹腔鏡下胆囊摘出術、小腸部分切除術などの小腸開腹手術の経験を積んでもらう。乳癌、胃癌、大腸癌の根治術を行。手術助手としては担当となった患者のすべての手術に参加し、さらには担当以外でも適宜 Major Surgery の第2助手として参加する。検査手技としては、上部消化管造影、注釈造影、上部消化管内視鏡、大腸内視鏡、ERCP、胆道鏡、気管支鏡などを経験する。</p>
小児科	<p>小児科では関連診療領域を含む幅広い知識で患者の病態を把握し、患者中心の全人の医療を実践する。子どもの誕生から、成長次世代の子どもを持つまでをひとつつのlife cycleと捉え、成育医療を実践する。当院指導医ならびに慶應義塾大学小児科学教室指導医による指導を受け小児期のさまざまな症例を経験し、小児ごとの検査および治療の基本的な知識を身につけ、その重症度を的確に判断し速やかな処置が取れるよう各手技を習得する。</p>
産婦人科	<p>(1)女性特有の疾患による救急医療を研修する。卒後臨床研修の目的の一つに「緊急を要する病気を持つ患者の初期診療に関する臨床能力を身につける」とあり、女性特有の疾患に基づく救急医療を研修する必要がある。これらを的確に鑑別し初期治療を行うための研修を行。</p> <p>(2)女性特有のプライマリーケアを研修する。春期症、更年期の生理的、肉体的、精神的変化は女性特有のものである。女性の加齢と性周期に伴うホルモン環境の変化を理解とともに、それらの失調に起因する諸々の疾患に関する系統的診断と治療を研修する。</p> <p>(3)妊娠産褥ならびに新生児の医療に必要な基本的知識を研修する。妊娠分娩と産褥期の管理ならびに新生児の医療に対する必要な基礎知識とともに、育児に必要な母乳育成を学ぶ。また産褥期に対する授業の問題、治療や検査をするまでの削除等についての特殊性を理解することは全ての医師に必要不可欠なものである。</p>
精神科	<p>精神科診療の特性について学ぶ。(1)精神疾患に関する基本知識を身につけ、主な疾患の診断・治療計画を立てることができる。(2)精神症状に対する初期的な対応とケアの基本(3)ソーシン精神医学および緩和ケアの基本(4)向精神薬療法の基本(5)簡単な精神療法の技法(6)精神科救急に関する基本的な評価と対応(7)精神保健福祉法(精神科入院規則)他(8)おひそしの他の専門法規の知識及び、適切な行動制限(8)ティケイアなどの社会復帰や地域支援体制</p> <p>B 経験すべき診療法(1)基本的な診察法(2)基本的な臨床検査</p> <p>C 経験すべき症候・病態・疾患(1)頭痛の高い症候(2)緊急を要する症候・病状・疾患 等</p> <p>D 緩和・緩和・終末期医療を必要とする患者との家族に対して、全般に於けるために心理社会的側面、告知をめぐる諸問題、生死觀・宗教観などの面がかかる。</p>
麻酔科	<p>★麻酔科は原則2年目に慶應義塾大学病院で4週研修する。</p> <p>日本麻酔科学会認定研修施設、日本ベンクリニック学会指定研修施設である。</p> <p>麻酔科では、麻酔技術および術前・中・後管理を修得する。麻酔研修・麻酔を通じ、呼吸・循環管理を中心とした全身管理に必要な基本的手技・知識を学ぶ。集中治療研修・急性に命危険に陥るような危険性のある患者の集学的治療を学ぶ。緩和・緩和・終末期医療を必要とする患者とその家族に対して、全般に対応するために必要な手技及び知識、態度を学ぶ。</p>
一般外来	経験症候および経験疾患が広く経験できる外来において、研修医が診察医として指導を受け、適切な臨床推論プロセスを経て臨床問題を解決する研修となっている。

以下、慶應義塾大学病院から研修医への注意事項

・外科研修はその他の外科系の診療科への振り替えは認めませ

・必修科目がある病院では、必ず必修科目を研修してください。振り替えは認めません。

必修科目的研修ができるない場合、選択可能な診療科  
神経内科、腎臓内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、膠原病内科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、形成外科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、皮膚科、泌尿器科、リハビリテーション科、緩和ケア内科  
放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、小児科、産婦人科、外科、精神科、救急科、麻酔科

○研修アピール

足利赤十字病院は、栃木県県南部に位置する「両毛医療圏」(人口約5万5千人)における唯一の核病院であります。平成23年7月からは一般病棟全て個室、最新設備の高精度先端検査機器を備えた新しい病院が稼働しました。地域医療機関との密接な病診連携を継続的に構築し、24時間体制で救命救急センターを整備し、急性期疾患に対してチーム体制で対応しております。一方、総合率は約70%以上を維持しており、平均在院日数も15日前後となり、地域の医療機関の機能を十分に連携の促進がなされています。

チーム医療の中で日々初期臨床研修を行っており、各科の部長の協力と教育への熱意によりプログラムがスムーズに運営されています。

研修医の要望、改善要項についても聞き入れる機会を持つて、指導医による一对一の指導を行っています。救命医療体制は日本医大的な全面的な協力をも充実したプログラムが組まれています。そのため、新臨床研修制度は重視する「プライマリ・ケアの修得」には適切な環境です。研修プログラムを支援するためには院内セミナー、院外セミナーなどの支援があります。

プログラムが企画され、救急医療セミナーの一環として「AHAのBLS provide course」の受講もできようになっています。医師赤十字病院では、病院長のリーダーシップの下で、指導医が新臨床研修医の「学習成長」をひとつのメインとしており、病院医師会の評価も度々高いままあります。それにつれて、来院医師は自分たちのやる気次第次第だと思いますが、ここでそれに応える環境はそろっており、知識はもちろんのこと、さまざまな手技も覚えられると思います。

また、研修医たちは直に話題に触れ、意見を傾けています。医療、そして人生の先達として将来を決定するためのサポートを行い、またその意見を初期・後期プログラムの改善に役立てています。そして、各々進むべき方向が決まる初期研修2年目には指導側による研修医の信頼関係を築き、研修医たちは遠慮することなくそれぞれ意見を伝えています。現在、研修医2年目の研修医は、地域医療、へき地医療に非常に高い関心を持ったことにより、地域医療研修プログラムを導入し、北海道の浦河赤十字病院へ派遣を開始しました。  
そこで医療では、絶対りでなく、病院医療へとつなげ、地域医療を支えるチーム医療を実践しています。

当院は平成23年7月に全面移転しました。新病院は分室型、全室個室の次世代型クリニックスタイルです。最新の医療機器を備えた一般病棟全個室の病院や、様々なエヌへの取り組みは医療建築としても注目されており、数々の賞を頂高く評価されています。平成27年2月には国際認証機関であるJCI (Joint Commission International) の認定を、赤十字病院として初めて、国内では9番目に取得し、医療の質向上にも積極的に取り組んでおります。更に、平成29年2月には認定部門における国際安全基準であるISO13485を取得し、医療の質向上に日々努めしております。

平成29年10月に完遂した研修医の生活拠点である寮は、デザイナースマンションのような非常に充実した造りとなっています。是非、当院での初期研修を行ってみませんか。見学、お立ち直りします。

○研修医からのメッセージ

足利赤十字病院 初期研修修了  
(慶應義塾大卒出願)

足利赤十字病院で初期臨床研修を始めて1年、今私が感じる当院の魅力を紹介します。

●病院が広くてキレイ

平成23年には新病院として建て替わった当院は広くてキレイです。病室は全室個室で我々にとっても診療しやすい環境だと感じます。また研修医室が広くて快適なので研修医にとって嬉しいポイントです。

●症例が多い

足利赤十字病院は地域の中核病院であり、様々な患者さんが受診されるため、様々な症例、手技を経験することができます。救命救急センターでの日当直では初期診療の中心的な役割を担うことができ、ここでも多くの知識と技術を身につけます。

●研修の自由度が高い

研修内容について各科で柔軟に対応してもらえたため、それぞれの志望に沿った研修ができています。当院では研修医だからといって、雑用に追われるようなことはなく、スタッフがみな優しくいます。上級医の指導のもと、日々充実した研修生活を送ることができ、この病院で研修をしてよかったですと実感しています。ぜひ一度見学に来て当院の魅力を感じてください。

研修実施責任者 足利赤十字病院 院長 宮久 傑

※問い合わせ先  
担当部署・担当者名： 教育研修管理課 係長 伊藤 篤  
住所： 栃木県足利市五十町部280-4  
TEL： 0284-21-0121 内線2353  
E-mail：[a\\_itoh@shikagaku.or.jp](mailto:a_itoh@shikagaku.or.jp)